終わり、「SF作家になられた動機、きっかけについて学生時代の過ごされ方も含めてお話しください」との最初の質問に、戦時中の体験、大学時代に感じたこと、「日本沈没」を書くことになったきっかけや科学的裏付けに苦労したこと、「さよならジュピター」の映画制作時の苦労話などを一気にお話しいただきました。固有名詞、年代が次から次へ出てきて記憶力の確かさに感心しました。その後も殆ど質問する暇もなく、いろいろなお話しをいただきましたが、詳細な内容は写真とともに本誌に掲載されておりますのでご覧ください。背景には、川北監督に纏めていただいた「さよならジュピター」と「日本沈没」のダイジェスト版が流され、一層の効果を高めることができました。若い世代の方には馴染みの少ない固有名詞が含まれていたのが心配です。

幸い大会期間中は3日間とも好天に恵まれ、奈良公園内の会場での開催は参加者の皆さんにご満足いただけたのではないかと思います。

### ○幹事・プログラム担当からの報告

## 北村喜文

幹事（大阪大学）

バーチャルリアリティ学会大会は本年で第4回を迎えましたが、これまでの実行委員の先生方のご努力により、昨年の第3回大会までで、大会のスタイルは確立されていたのではないかと思います。そこで本年の大会では、このスタイルの大枠は大切に踏襲した上で、“関西”の地域性を生かして、さらに充実させて行きたいと思いました。そのため、我々大阪大学のメンバーだけではなく、奈良先端科学技術大学院大学、ATR知能映像通信研究所、松下電工株式会社など、関西を代表するVR拠点の皆様に実行委員のコアメンバーとして大会運営の中枢に加わっていただき、知力・体力と貴重なお時間をずいぶん割いていただきました。

発表論文の数は第1回大会以来順調に増加してきており、本年はついに143件となりました。この盛況ぶりは、大会を運営する立場からは嬉しいことではありましたが、プログラムの編成の一部に無理を強いる結果となりました。つまり、十分な質疑応答の時間が取れない、セッション間ごとに十分な休憩が取れない、などです。これらの点について、不自由をおかけした皆様にはおわびいたします。来年度以降もこのまま発表件数が増加するのであれば、何らかの工夫が必要かもしれません。

本大会では、皆様への大会に関する情報の伝達とお申し込みなどの登録に、ホームページと電子メールを中心に利用いたしました。中にはエラーなどでご不便をおかけした方もいらっしゃったようですが、結果として400名を越す方々のご参加をいただき、まずは最低限度の機能は果たすことができたのではないかと考えております。ただ、せっかく非常に多くの方にアクセスしていただけたのに、ホームページはあまりにも機能重視で、デザインの面まであまり気を配る余裕がなかったのが悔やまれる点です。これに対して、本大会のポスターは、東京大学の河口洋一郎先生にすてきなデザインで作っていただきました。各方面へお送りして積極的にPRさせていただくとともに、大会当日は、本学会の大会らしい受付の装飾にも活用させていただきました（写真1）。

会場では、来年度以降の大会をより良くするため、ご参加いただいた皆様にアンケート用紙を配らせていただきました。回答を寄せていただきました内容の一部は、本大会報告の最後に掲載させていただきます。

最後になりますが、さまざまな角度から積極的に本大会にご参加いただき盛り上げてくださった皆様と本大会実行委員の先生方、過去これまでの大会を成功に導き、有益なノウハウを残してきていただいた歴代の幹事の先生方をはじめとする実行委員の皆様に感謝いたします。

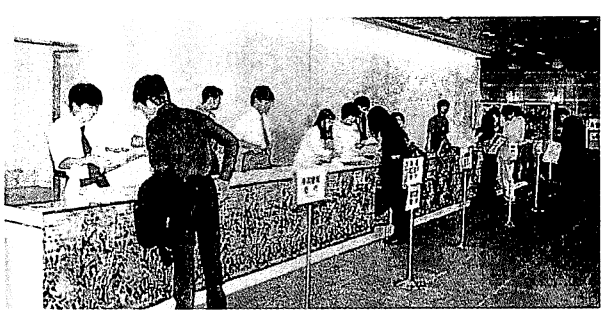

写真1：受付の様子

### ○実演発表（技術展示／作品展示）機器展示の報告

## 野間春生

展示担当（ATR知能映像通信研究所）

日本バーチャルリアリティ学会大会での展示企画は、いずれも貴重な研究成果、あるいは、最新の製品を大会参加者に直接体験いただく場として、例年、好評を頂いております。本年は、実演発表として技術系展示9件と芸術系の作品展示4件、さらに最新の商用化VR関連装置の展示に20社の機器展示が設けられました（写真2、3）。

従来は展示条件などによって分散しておりました展示企画を、本大会では一つの大部屋に集約することができ、そのため、天井照明を落として各ブースへ個別照明を配置するといった構成となりました。このため、各ブースで

の準備・撤収での制約が非常に大きくなりましたが、展示の皆様のご協力のもと特に支障無く、結果的に個々の展示が浮かび上がり会場全体が良い雰囲気となりました。また展示会場のすぐ外にはコーヒーサービスを設け、多くの方に集まっていただくことができました。この場をお借りしまして、展示にご協力いただきました発表者、企業の皆様、ならびに、会場設営に奮闘いただきました公会堂スタッフの皆様にお礼申し上げます。

写真2： 実演発表の様子

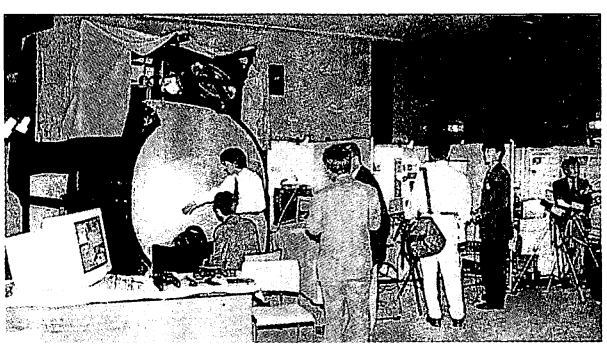

写真3： 機器展示の様子

○ 大会会場担当からの報告

## 山澤一誠

会場担当（奈良先端科学技術大学院大学）

今回の日本バーチャルリアリティ学会大会が開催された奈良県新公会堂は奈良公園内に位置し、東大寺南大門の目の前です。また、奈良県新公会堂には「ビッグルーフ」という愛称があり、日本一広い屋根と美しい能楽ホールを誇っています。三つのパラレルセッションのうちの一つでこの能楽ホールを使用しましたが、恐らく他の会場では味わえない雰囲気に、発表者の皆さんだけではなく聴衆の皆さんにも喜んでもらえたことと思います。ただ、奈良県新公会堂では同じ大きさの会議室を複数用意できなかったため、一番小さい会場で行われたセッションでは参加者が会場に入りきれず入り口付近で立ったまま発表を聞いていただくというになってしまったという点が少し残念でした。最後に何度も会場に準備のため足を運んでいただいた大会実行委員の皆様、大会期間中にさまざまなお手伝いをしていただいたアルバイトの皆様、また奈良という不便なところにもかかわらず来ていただけた多くの参加者の皆様に御礼を申し上げます。

○ 懇親会・テクニカルツアーの報告

## 坂口竜己

会場担当（ATR知能映像通信研究所）

ー懇親会ー

大会2日目、9月30日（木）の18:30より北京料理店「百楽」にて懇親会が開かれました。昨年の第3回大会（札幌）での懇親会の大成功を受け、今年はどうしようかと会場の選定から実行委員の皆さんとずいぶん悩みましたが、奈良は日本の歴史の発祥の地と言われ、当然大陸からの影響を受けており、中華料理発祥の地とも言えますので中華料理店を会場としました。大会会場から徒歩約20分と若干距離があったにもかかわらず、開始時間にはほとんどの方が到着され、最終的には約150名の方々にお集まりいただきました。料理は本格的中華料理のバイキング形式で、前菜から点心、デザートまで充分に用意されており、種類豊富な酒類とともに参加者にはご満足いただけたようでした。会の半ばでは、招待講演のあと懇親会にも参加して下さった小松左京先生のご挨拶に続き、VR学会初となる論文賞の発表および表彰式が行われました。その後、雅楽演奏グループによる「笙・篳篥」の演奏会が開かれ、奈良を象徴する雅な音楽に参加者の方々も箸を休めて聞き入っておられました（写真4）。最後に次回大会長の岩田先生（筑波大学）からの決意表明があり、会はおひらきになりました。

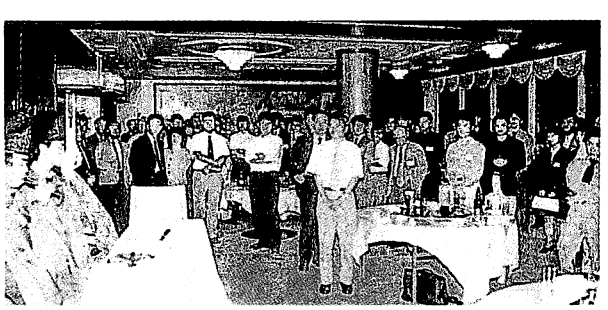

写真4： 懇親会で披露された雅楽の演奏

ーテクニカルツアーー

大会最終日、10月1日（金）の13:30～17:30の間、奈良先端科学技術大学院大学（NAIST）とATRをバスで巡るテクニカルツアーを開催しました。双方の見学先では、